

9 高気圧酸素治療における体験加圧の有用性の検討

盛本真司¹⁾ 米満幸一郎¹⁾ 小村 寛¹⁾
川田慎一¹⁾ 改元敏行¹⁾ 川野美香子²⁾
有村敏明³⁾ 山口俊一郎³⁾ 濱崎順一郎³⁾

- | | | |
|----|-----------|----------|
| 1) | 鹿児島市医師会病院 | 高気圧酸素治療室 |
| 2) | 同 | 看護部 |
| 3) | 同 | 麻酔科 |

【はじめに】当院では2003年6月に4名用第二種装置(川崎社製KHO-300S-1)が設置され、高気圧酸素治療(以下HBO)が開始された。稼動当初、新規患者を含むHBOにおいて、新規患者の耳抜き不良による耳痛出現のためHBOを中止し、同室の患者に迷惑を掛けたケースがみられた。その対策として2003年7月より新規患者に対して体験加圧(1.6気圧昇圧)を実施している。今回我々は、この体験加圧の有用性について検討したので報告する。

【対象と方法】2005年4月1日から2006年7月31日までの間に、当院でHBOを行った167例を対象として、体験加圧の実施状況、耳痛出現の有無および出現時の気圧、鼓膜切開実施について検討した。

【結果】対象期間にHBOを実施した167例中、体験加圧を行ったのは51例(30.5%)であった。体験加圧を行わなかった残り116例の内訳は、鼓膜切開49例、HBO経験者20例、スタッフ入室47例、内室一人治療36例、その他5例であった。体験加圧を行った51例中14例(27.5%)に耳痛が認められ、その内鼓膜切開を行ったのは7例であった。体験加圧にて耳痛がみられた14例の耳痛出現時気圧は、1.2気圧台4例(28.6%)、1.3気圧台7例(50.0%)、1.6気圧3例(21.4%)と1.3気圧台に多くみられた。

【考察】体験加圧を行った51例中、本治療で耳痛により昇圧を一時停止したのは2例(3.9%)あったが、治療中止になった例はみられず同室の患者に迷惑を掛けるケースが大幅に減った。また、アンケート調査においても「耳抜きのコツがつかめた」「HBOに対する不安が減った」「体験加圧は実施すべき」という回答が多くみられ有用であると思われた。

【結語】新規患者に対する体験加圧は、耳抜きのコツがつかめ、HBO実施の不安排除に有用であった。

10 市販後調査による高気圧酸素治療関連情報の傾向

小林 浩^{1,2)} 長尾孝治¹⁾ 望月 徹²⁾
池田知純²⁾ 野寺 誠²⁾ 柳澤裕之²⁾

- | | |
|----|----------------|
| 1) | ジャパン・エア・ガシズ |
| 2) | 埼玉医科大学医学部衛生学部門 |

医薬品、医療機器等を製造販売している事業者は、2005年から企業報告制度として副作用・不具合等の情報を医薬品医療機器総合機構へ報告することが義務づけられた。企業報告制度の主たる目的は安全性の確保であり、医薬品等の品質、有効性及び安全性に関する事項、その他医薬品等の適正な使用のために必要な情報を収集、検討およびその結果に基づく必要な安全確保措置を行わなければならないこととされている。演者らは、企業報告制度により収集した医療ガスの適正使用情報のうち、特に高気圧酸素治療(以下HBO)に関する報告に着目し検討を行ったので報告する。

【調査方法】調査方法は、(財)日本医薬情報センターが収集している日本国内の学術団体による学術大会抄録集および定期刊行学術雑誌から、キーワードを酸素、窒素、二酸化炭素および亜酸化窒素に絞り、これらの医薬品の副作用と有効性に関連する事項のみを抽出した。今回の調査では海外情報については対象としなかった。

【結果】2000年4月から2006年3月の6年間に収集された論文および学会報告抄録の総数は、総計1,673件であった。これらのうちHBOに関する報告が68件あり、疾患に対するHBOの有効性の報告が33件、無効もしくは気圧傷害症例が10件、その他臨床応用や臨床検討に関する報告が18件、動物実験が7件であった。報告の約半数が、HBOの有効性に関係し、HBOと酸素に直接起因する副作用症例報告は認められなかった。また、公知された学術媒体は日本高気圧環境・潜水医学会が68件中7件であり、当学会以外で比較的多くの報告が行われていることが知られた。